

令和8年7月号

ゆう's ねっと

つくり すこしずつ行こまいか

ENA

発行／恵那市青少年育成市民会議 第53号

第22回 恵那市少年の主張大会

6月13日(土曜日)、恵那文化センターで、第22回恵那市少年の主張大会を開催しました。市内4中学校の代表生徒が、ステージ上で熱い思いを発表しました。審査の結果、恵那東中学校の小木曾陽南さんが最優秀賞に選ばれました。最優秀作品全文と、優秀・奨励賞作品の要約を紹介します。



最優秀賞

小さな優しさが私をつくった

恵那市立恵那東中学校 三年生

こぎそひな
小木曾陽南

優しさとはどんなものだと思いますか？

私は、優しさには「大きな優しさ」と、「小さな優しさ」があると思います。「大きな優しさ」は、自分が少し無理をしても行なったり、長期間に渡って誰かを支えたり、自分の時間やエネルギーを多く使う、普通の優しさとは違う特別なもの。「小さな優しさ」は、自分が無理のない範囲でできたり、日常の中にあるさりげない、一瞬の優しさです。前までの私は、大きな優しさが重要だと、小さな優しさは相手に伝わりにくいものだと思っていました。実際、大きな優しさは、誰かの支えになるし、小さな優しさと比べて、助かったという感情を強く感じます。しかし、これまでの多くの経験を通して感じるのには小さな優しさこそ大切であるということです。

私は2年生の後期に学級委員に挑戦しました。後期には合唱発表会や、3年生を送る会など、クラスや学年で協力して取り組む行事が多く、リーダーとして行動する場面が多くありました。私は「みんなのために頑張らなければいけない」と考え、できることを全てやろうと努力していました。そんな、忙しく過ごしていたとき、担任の先生が、「頑張りすぎてないか心配だな」と声をかけてくださいました。この言葉は先生からしたらささいな一言だったかもしれないですが、私はこのささいな一言で、「もっと頑張らないといけない」という焦った気持ち、軽くなりました。それに、ここまで頑張ってきた良かったと、自分の頑張りを認めることができました。

この経験から私は、小さな一言で、大きな心の余裕を作ることができるのだと知りました。それに、たとえ小さな一言でもその言葉には、人の心を支えられるような優しさが詰まっていると感じました。そして、このさりげない一言

が小さな優しさなのだと気づきました。

また、人が優しさを感じる瞬間は、実は日常の中にあふれています。私が特にそう感じるのは、両親の存在です。それは、私が勉強に全力になっている時でした。勉強を終え、休憩していると、冷蔵庫の中にゼリーが入っているのを見つけてきました。母が何も言わずにそっと、買ってきてくれていたものでした。あの優しい味は未だに忘れられません。また父は、仕事の時間が不規則でも、学校行事や、授業参観など、都合をつけて見に来てくれます。合唱発表会では、私が指揮をするのを聞いて、仕事に行く前に見に来てくれました。客席の一番後ろではあったけど、父の立つ姿を見つけた時、緊張がほぐれ、笑顔になれる心の余裕ができました。私の両親は、ただ励ますだけでなく、私の頑張りに気づいて応援してくれたり、そっと支えてくれたり、とても心強い存在です。前までは、それを当たり前のように感じていましたが、成長していくにつれて、「あれって、私を思ってくれていたんだな。」と、親の偉大さを感じます。それに、この小さな優しさは、とてもありがたいと思うし、心が落ち着きます。この両親の優しさは、私がここまで育つてくる中の小さな優しさが積み重なってできていると思います。

このような優しさを感じて、今度は私がその優しさを渡す側になりたいと考えています。誰かの努力に気づいて言葉にすること、配慮してそっと支えること、困っている人に「大丈夫？」と声をかけること。その一つ一つが小さな優しさだと思っています。

小さな優しさは、目には見にくいものです。しかし、私を作ってくれたそんな優しさを、今度は誰かのために。小さな優しさが広がることで、もっと過ごしやすく、温かい社会になると信じています。

優秀賞（2名）

※発表順

合唱で、想いをつなぐ

恵那東中学校

三年生 大島 彩愛
おおしま いろあ

先輩の合唱を聴いてその魅力に気づき、仲間と協力して作り上げる達成感や、気持ちを込めて聴き手に届ける大切さを学んだ。合唱で得た経験を今後の生活にも生かしていきたい。

言葉で広がる笑顔

恵那北中学校

三年生 植木 小百合
うえき さゆり

日常で軽く使われる言葉に違和感を抱き、母との経験から言葉の重みと力に気づいた。言葉は人を傷つけも支えもするものであり、思いやりを持って大切に使うべきだと考えている。

奨励賞（4名）

※発表順

日本の礼儀と思いやり

恵那南中学校

三年生 横光 きなり
よこみつ きなり

日本は大陸文化と風土を融合し和風を築いてきた。巫女や琴、空手を通じ礼儀や思いやりを学び、その価値を実感している。伝統文化の魅力を伝え、後世へ継承していきたい。

自分を否定しない生き方

恵那西中学校

三年生 伊藤 結琳
いとう ゆかり

自信がなくな行動できなかつたが、道徳の授業をきっかけに努力を認める大切さを知り、少しずつ挑戦するようになった。人との関わりを大切にし、自分を受け入れながら成長し続けたい。

言葉がくれた夢

恵那南中学校

三年生 大島 舞
おおしま まい

薬剤師の言葉に心を動かされ夢を抱く。職場体験や家族の経験から医療の責任の重さを知り、妥協しない姿勢と優しさの両立を学ぶ。将来は覚悟を持って患者に寄り添う薬剤師を目指している。

想像することを守る、名前の未来

恵那西中学校

三年生 加藤 那奈美
かとう ななみ

実名報道を巡る問題に疑問を抱き、名前が人や家族に与える影響の大きさに気づいた。ネット社会だからこそ情報の扱いには思いやりが必要だと考え、大切な人の立場で想像し続けたい。

寄せられた感想

●全員、発表の内容、心うたれる発表ばかりでした。感動して聴かせて頂きました。若い中学生に英気をもらいました。これからの社会、実に大切な尊い生き方だと思いました。

（長島町・70代）

●どの発表も作文ではなく、自分の考え方、将来を見据えた目標等、具体性があり、自信あふれる発表でした。

（大井町・70代）

●今回の発表も前回の発表のものとまた違う色があり、しみながら、主張の意味を考えながら聴かせていただきました。どの発表も発表者の思いや経験が背景として見える発表でした。抑揚や緩急のつけ方で、どのように意見を伝えるか、何を一番に伝えるかを考え、準備してきたのだと分かります。これからも市少年の主張大会が続いていくことを願います。

（10代）

●中学生ならではの視点で社会を見つめ、自分のこれまでの人生や周りの人の生き方と重ねながら将来について語る。その言葉一つ一つや、力強い声に感動とたくましさを感じた。日常のささいな思いを大切に、中学生に負けないよう生きていきたい。そんな気持ちになった。

（岩村町・30代）

教育支援室「はなのき教室」 教育支援室「むつみ教室」を 知っていますか？

「学校に行くのが少しイヤだな」と思うときや、
いじめで困っているとき、学校でうまくなじめないときに、
ひとりで悩みを抱えず、だれかに話してみませんか？

はなのき教室やむつみ教室は、学校生活で困っていることなどを相談できる場所です。この教室では、学校に行けない期間でも、体調や気持ちに合わせて通え、自分のペースで学ぶことができます。



保護者の方へ

教育支援室では、登校しぶり、学校生活になじめないなどの悩みをもつ児童生徒・保護者のみなさんを支援します。ご相談には、事前に電話で予約をしてください。後日面談を行います。

教育支援室「はなのき教室」

相談日時

月曜日から金曜日
午前9時から午後5時
(祝日、年末年始は除く)

場所 市民会館3階

申し込み先 TEL 0573-26-6922

教育支援室「むつみ教室」

相談日時

月曜日から金曜日
午前9時から午後5時
(祝日、年末年始は除く)

場所 岩村コミュニティセンター内

申し込み先 TEL 070-3239-5121

市内には他にもフリースクールがあります。

教育支援室、フリースクールについてのお問い合わせは

学校教育課まで TEL 0573-26-6850

恵那市
教育相談HP →



その他、お子さんについてご相談されたい場合は下記、各種窓口にお問合せください。

あおば (発達相談)

子どもの発達に関する
ことや、子育ての
悩みなど



こども家庭センター (家庭児童相談)

家庭での児童養育や
人間関係、その他児童
の福祉に関する相談



えなし子育て 応援なび えなっ宝

子育て支援情報掲載
ウェブページ





「新しい環境を、みんなで最高の場所に」

今年4月に開校した恵那南中学校。新しい環境の中で、選挙で初代生徒会長に選ばれた横光さんに話を聞きました。

——生徒会長に立候補した理由を教えてください。

生徒会長は、学校全体の生徒の様子を一番よく見ることができる立場だと思いました。新しい学校で、人間関係に不安を感じている人もいます。そうした中で、みんなが安心して学校生活を送れるようにサポートしたいと考え、立候補しました。

——新しい学校だからこそ、挑戦したいことはありますか。

これまで同じクラスで長い時間を過ごしてきたので、新しい環境ではまずたくさん友だちを作りたいと思っています。また、生徒会として新しい行事の企画にも積極的に取り組み、みんなが楽しめる学校づくりをしていきたいです。

——広報誌を読む同世代のみなさんへメッセージをお願いします。

新しい環境では、初めて会う人ばかりで緊張することもあると思います。でも、きっとみんな同じ気持ちです。だからこそ、自分から積極的に話しかけていけば、楽しく過ごせるようになると思います。自分のやりたいことを大切にしながら、一歩踏み出してみてください。

——統合から約2か月が経ちましたが、学校の雰囲気はどう感じていますか。

とても良い雰囲気だと思います。すでに友達同士で会話もできていて、気まずさはほとんど感じません。1年生から3年生まで、全体的に打ち解けてきていると思います。今後も行事などを通してさらに交流を深め、来年には全員が「この学校が最高だ」と思えるような学校にしていきたいです。

町民会議の活動

笠置町



5月12日(火)に、恵那北小学校3年生の授業で花育て・野菜育て「種まき」を行いました。説明後、児童は自ら集まり、「このくらいまで」「ふんわり」と助言を受けながら手際よく培養土をカップに入れました。学校の教育目標の一つ「進んでできる子」意識の発動。種まき後は水やりも行い、今後の管理について「交代で」「気づいた人が」など口々に意見を発表。教室に帰ってからは、水やり当番を相談。次は植え替えを予定しています。

～笠置町推進員の感想～

以前は児童が花の苗をポットから花壇へ植え替えする事業でしたが、今は児童が種まきから始めるように変わりました。自ら蒔いた種から芽が出た時の感動を忘れずにいてくれたらと思います。



中野方

6月6日(土)に、中野方町の田の神様ともしび祭りが開催され、中野方町青少年育成町民会議委員も活動しました。また、恵那北中学校にボランティアを募り、生徒8人がパンフレットの配布、協力金依頼や提灯販売のボランティアスタッフとして運営に加わりました。

中学生にとって、大人と一緒に地域行事に取り組む体験は、地域の方との交流を深める貴重な機会となっています。中野方小6年生は、杵振り踊りを披露しました。



～中野方推進員の感想～

棚田のあぜに灯された無数のろうそくの光が夜の景色を幻想的に彩り、地域の皆さんの温かさと棚田の魅力を改めて感じることができました。

